

た伊策は、自分の考えている新しい珠算のやり方は、計算の能率を高めることだから、水野先生みずのの話に関係があるかもしれない、と思いました。

伊策は、自分の今までの研究の記録をまとめておいたので、さっそく水野先生に見ていただきました。先生は、研究の内容をくわしく読まれてから、研究のりっぱなことに感心されて、

「割り算九九がいらないということは、たいへんよい思いつきだ。どうだろう、これを全国の人に読んでもらうために、本にしては。」

と言われました。

こうして、水野先生のお世話になって、実業じつぎょうの日本にほん社というところから出版しゅつぱんされたのが「割九九わりくくいらすの珠算」という本でした。これが、全国の珠算研究家の人々に、星伊策ほしさいさくの名を広めるきっかけとなり、伊策の珠算の道をうち立てる第一歩となったのです。